

ひとがつながり 未来を育む 共創のまち

～^まち^ち糸魚川を知り、^まち^ち糸魚川と共に生きる～

市民、地域、事業者、行政など多様な主体がつながり、互いに支え合いながら、それぞれの力を活かして未来をともに育むまちを目指します。

1 検討の背景と経過

第4次糸魚川市総合計画の策定にあたり、人口減少や少子高齢化などの社会環境の変化を見据え、これからの糸魚川市が目指すまちの姿を検討してきました。

検討にあたっては、市長が掲げる「縮充」の理念をはじめ、地域のつながりや支え合い、地域資源・人材の活用、医療・福祉・教育・防災などの安心基盤、市民主体の協働を重視しました。

主な検討の方向性

- ・市民、地域、事業者、行政など、多様な主体による協働
- ・人と人とのつながりや、世代を超えた支え合い
- ・地域の特色や資源、人材を活かした持続可能なまちづくり
- ・安心して暮らし続けられ、将来に希望を持てる地域の実現

これらを踏まえて複数案を作成し、市長と中高生との懇談会で、これからの糸魚川市に対するイメージや意見を聴きました。その結果、将来像については第2案に最も多くの賛同がありました。

2 将来像候補

案	将来像	主な特徴
第1案	安心を紡ぎ 未来を拓く 共創のまち	安心を基盤に、多様な主体が協働して未来を切り拓く姿
第2案	ひとがつながり 未来を育む 共創のまち	人のつながりを起点に、市民が未来をともに育てる姿
第3案	選び高め 未来を紡ぐ 豊かなまち	地域資源を見極め、価値を高めながら次世代へつなぐ姿

3 第2案を提案する理由

① 市民主体の姿を表現

「ひとがつながり」は、市民一人ひとりがまちづくりの担い手であることを示します。地域課題に対し、多様な主体がそれぞれの力を活かす姿を、わかりやすく表現できます。

② 中高生からの共感

市長と中高生との懇談会では、3案のうち第2案に最も多くの賛同がありました。人とのつながり、支え合い、希望ある未来への期待が表れています。

③ 計画全体を包含

「安心」や「縮充」を直接掲げなくても、つながり、支え合い、地域の力を活かすことを通じて、それらの理念を幅広く含めることができます。

④ 「育む」の広がり

「未来を育む」には、子どもや若者、人とのつながり、文化、自然、産業、安心、希望、地域への愛着などを次世代へつなぐ意味が込められます。

4 副題を採用する理由

～糸魚川（まち）を知り、糸魚川（まち）と共に生きる～

「糸魚川（まち）を知り」は、地域の歴史、文化、自然、産業、人の営みを知り、魅力や課題を自分ごととして捉えることを表します。

「糸魚川（まち）と共に生きる」は、単に住むという意味にとどまらず、地域の変化や課題を受け止め、支え合いながら、まちとともに歩む姿勢を示します。

市長が掲げる思いを直接的に反映するとともに、将来像の「共創」と結びつき、市民主体のまちづくりを支える副題となります。

まちを知る



愛着・誇り



人がつながる



共創する

※参考（その他の候補） ～糸魚川（まち）を知り、安心と希望をつなぐ～

～糸魚川（まち）を知り、糸魚川（まち）と育つ～

5 確認をお願いしたい事項

- ・将来像、副題の方向性及び表現について
- ・将来像と副題を一体的に掲げることについて
- ・表記上の細部（漢字・ひらがな・括弧書き等）について